

SCENE 1

経営者の背中を見て学ぶ「カバン持ちプログラム」

次世代の起業家を育成する「カバン持ちプログラム」と「トライアル起業プログラム」に参加した16人の学生・生徒が活動成果を報告する「STARTUP YOUTH FES HYOGO」を3月14日、神戸市内で開催しました。両プログラムは2025(令和7)年度に始まった事業で、前者は県内の経営者をメンターに5日間密着し経営のリアルを学ぶプログラム、後者は専門家の協力を得てビジネスプランを実証するもの。参加者たちは、経営者に同行して学んだことや実際に起業に取り組んだ結果、今後の展望などを発表しました。これからも県は若者の起業を後押しします。



参加者とメンター経営者ら。

カバン持ちプログラムについて
トライアル起業プログラムについて



「カバン持ちプログラム」を振り返って

チームビルディングをリアルに学ぶ

昨年、企業向けにウェブによる広報支援事業を立ち上げました。榊原社長をメンターに選んだのは、スタッフの大半が子育て中の女性なので、リモートを活用したチームづくりの手法を学べると思ったからです。

リモート会議の初めにプライベートな話題を語り合う時間を設けるなど、スタッフ同士の関係を深めることの重要性に気付かされました。学んだことを生かしながら、本年度中に法人化し在宅ワークの体制を整えたいと考えています。

参加学生
沼部琳香さん
近畿大学4年生
(神戸市在住)

起業を目指す若者に期待

5日間行動を共にして特に印象に残ったのは、商談後に私の発言の真意を聞かれたことです。経営者は自分の言動を振り返る機会が少ないので、客観視する貴重な機会となりました。

最近は沼部さんのように起業を考える学生が増え、将来を見据えて行動する姿に感心させられます。会社経営は大変なことも多々ありますが、彼女なら持ち前のコミュニケーション力でまい進できると期待しています。

メンター経営者
榊原杏奈さん
㈱マククリエイターラボ
代表取締役

SCENE 2

青切符制度の導入開始 高校生の自転車事故を防ぐ

県では、自転車交通事故の年齢層別発生率が最も高い高校生を対象に、自転車の安全利用を呼びかけています。自転車の交通反則通告制度(青切符)の開始を前に3月10日、兵庫県警察等と合同で県立姫路南・姫路海稜高校で啓発活動を実施。自転車に関係した交通事故の発生状況や違反行為について解説し、交通ルールの順守やヘルメット着用の重要性を伝えました。



登校時には啓発チラシを配布。



講話を聴いて

北原樹さん(新3年生)
自転車の並走が違反になるとは知りませんでした。友達と一緒にの時、無意識にやっていたかもしれないので気を付けます。

開発悠晴さん(新2年生)
改めて事故の怖さを実感し、ヘルメットをかぶる方がいいと思いました。



五国^の現場から

SCENES OF GOKOKU

県内各地で行っている県の主要施策の取り組みなどをクローズアップします。

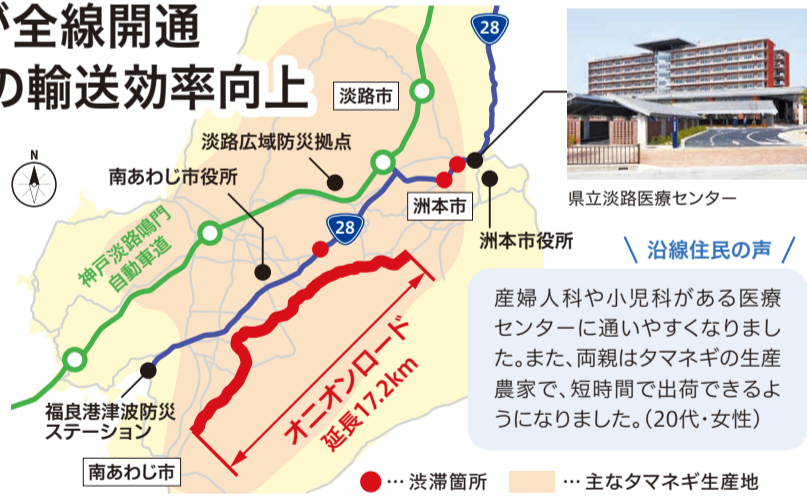


田園地帯に整備された「オニオンロード」。

SCENE 3

「オニオンロード」が全線開通 淡路南部の農産物の輸送効率向上

南あわじ市が農業生産額で近畿1位を誇るなど、淡路南部はタマネギ等の野菜の生産が盛んです。しかし、出荷には慢性的に渋滞している国道28号を通行せざるを得ないため、県は広域農道「オニオンロード」を整備し、3月28日に全線開通しました。これにより、農産物の輸送効率の向上はもちろん、便利で安全な生活道路としての利用が期待されています。また、災害時の輸送路、迂回路の確保、県立淡路医療センターへの救急搬送の効率化も図られます。



整備効果

- 渋滞減少による農産物輸送効率の向上
- 交通量の分散による利便性、安全性の向上
- 県立淡路医療センターへの救急搬送の効率化
- 南海トラフ巨大地震など災害時の輸送路、迂回路の確保